

孫 美幸(そん みへん)

文教大学国際学部国際理解学科 准教授

多文化に生きる豊か

【略歴】

- ・1998年大阪外国語大学外国語学部地域文化学科
東アジア地域文化専攻(朝鮮語)卒業。
- ・2000年京都市公立中学校初めての外国籍教員として採用。
- ・2004年教員退職後、大学院に進学。
- ・2010年立命館大学大学院社会学研究科博士課程修了。
- ・2019年より現職。

【著書】

- ・『深化する多文化共生教育 ホリスティックな学びを創る』
(明石書店2020年)
- ・『境界に生きる 暮らしのなかの多文化共生』
(解放出版社2017年)
- ・『日本と韓国における多文化共生教育の新たな地平
包括的な平和教育からホリスティックな展開へ』
(ナカニシヤ出版2017年)



これまで多文化共生教育を学校の先生方と一緒に創りながら、「境界」に生きる自分のアイデンティティや暮らしを、家族や友人たちと楽しんできた。

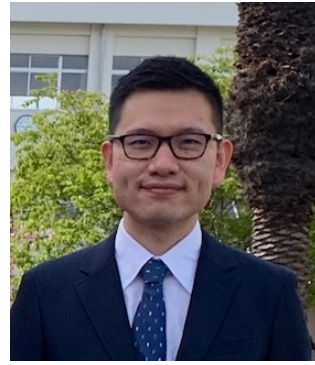
しかし、それは自分や家族に日々巻き起こる大小様々な壁を前にして、意識的/無意識に「楽しもう」と、やり過ぎさざるをえなかっただけかもしれない。

毎日の生活の中で幾重にも織り込まれた多様な壁を越える気力がなくなりそうな時、どのように自身が力を得て共に生きる方へと歩み出せるのか。自己と他者をケアし、いのちを肯定して前進する力、誰もが生きやすい社会へと変えていく力を育む学びとはどのようなものなのか。研究と実践の中で模索し続けている。

20年間続けてきた中学校、高校への人権学習講演はすっかりライフワークとなった。「自分らしく生きたい」「他人事ではない」と語りだした子どもたちに大人はどう応えるのかが問われている。

シチズンシップ教育は、あらゆる人々が共に生きる方へと力を得ていく学びへと切り拓いていけないのだろうか。

寺町 晋哉(てらまち しんや)
宮崎公立大学人文学部准教授



・ 略歴

大阪大学人間科学研究科博士後期課程単位取得退学。博士（人間科学）。

兵庫教育大学特命助教、大阪大学人間科学研究科助教、宮崎公立大学人文学部助教を経て現職。

・ 著書

『〈教師の人生〉と向き合うジェンダー教育実践』晃洋書房 2021

中村高康・松岡亮二編『現場で使える教育社会学』ミネルヴァ書房 2021（分担執筆）

松岡亮二編『教育論の新常識』中公新書ラクレ 2021（分担執筆）

・ 研究テーマ

これまで「ジェンダーと教育」をテーマに、主に教師へ焦点をあてながら研究を行ってきました。大きな関心の一つに「ジェンダー化された教師が学校でできることは何か？」があります。

学校は市民性を育むために重要な機関であり、「より良い未来」へ向けて「正しいこと」を伝える役割を持つと考えられます。「ジェンダーと教育」の文脈へ引きつけるならば、「ジェンダー公正な社会」を実現するために学校や教師は重要な存在であり、「正しいこと」を伝える役割を持っています。しかし、その重要な役割を持つ学校 / 教師が、ジェンダー（ある種の「間違い」）を再生産するを装置 / 担い手であると指摘されてきました。

教育に携わる者として、「ジェンダー公正な社会」を目指すことは必要だと考えています。ただ一方で、教師自身が「生まれてから現在までジェンダーの影響を受けながら人生を歩んでいること」も無視できません。「ジェンダー公正な社会」の観点からは「間違い」であるような言動を行う教師を批判対象にするのではなく、そうした「間違い」を教師自身が反省的に振り返りながら「ジェンダー公正な社会」を目指す方途を模索しています。

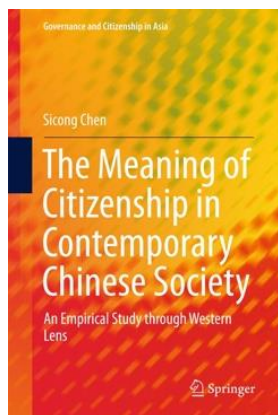
陳 思聰 (Chen Sicong / ちん しそう)

博士 (人間科学)。九州大学人間環境学研究院・准教授。専門はシティズンシップ教育。

中国広東省に生まれ、閩南語、広東語、北京語が使われる環境で育ちました。中国の暨南大学中国漢言語文学系卒業後、イギリスのヨーク大学でシティズンシップ教育とグローバル教育の修士学位を取得しました。2008年に来日。大阪大学人間科学研究科の博士後期課程修了後、東北大学教育学研究科助教、特任講師を経て2018年から現職。中国の出版社で編集者として務めた経験もあります。



より民主的かつ公正な社会のためのシティズンシップ教育のあり方について研究しています。自由、平等、人権、民主主義、公正・正義、多様性は現代社会において当たり前と認識されているなか、それらはどんな意味を持つか、場合によって意味は変わるか、それらを実現するために国民国家という政治的枠組みの限界はどこか、どんな市民が求められているか、教育の役割または限界は何か、といった問いについて答えを探っています。具体的には、西洋のシティズンシップに関する政治学理論を土台に、日本を含め東アジアのさまざまな社会の具体的なコンテクストを意識しながら、学校内外のシティズンシップに関わる教育政策と実践を批判的に分析しています。これまでの主な研究テーマには、現代中国社会におけるシティズンシップの意味とその教育的示唆、グローバルシティズンシップ教育の日中比較研究、社会正義教育の日中台比較研究などがあります。



主な著作に、単著書『The Meaning of Citizenship in Contemporary Chinese Society: An Empirical Study through Western Lens』(Springer, 2018年)があります。最近の論文には“Advancing global citizenship education in Japan and China: an exploration and comparison of the national curricula” (2020a)、“The official discourse of social justice in citizenship education: A comparison between Japan and China” (2020b)、“Educating for social justice in contemporary China: the politics of justice and injustice” (2021)などがあります。研究成果について詳しい情報は個人HP (<https://sites.google.com/view/sicongchen>) をご覧ください。

シンポジウムの発表では、はじめに「社会正義」概念について理論的に説明します。それから、8社の中学校道徳教科書のテキスト分析の結果から、日本の公的なシティズンシップ教育の言説において「社会正義」がどう意味付けられているかを明らかにします。発表内容は、上記の論文 (2020b) の一部をもとにしています。社会正義は何かを問うことを通じて、包括的、変革的かつグローバルな社会正義のための教育を目指すにはどうすればよいかの議論を提起できればと思います。